

## 「リストラ、産業再編下の産別労働運動 ～JAMの経験から～」

小山正樹 (JAM副書記長)

### 1. 報告の趣旨

JAMは、この10年、連合の中で、ものづくり産業における中小労働運動を担う産業別労働組合として、一定の役割を果たしてきた。企業別労働組合の弱さを克服し、どのように産業別労働運動を作り上げるかという視点から、報告と問題提起をさせていただく。

日本の労働運動をどのように強化するか。産別労働運動のあり方と今後の展望について議論いただくことをお願いしたい。

### 2. JAMの組織の特徴

- (1) JAMは、民間の産別組織で、UIゼンセン、自動車総連、電機連合に次ぐ4番目の規模。
- (2) 中小企業を多く組織しており、構成組織の約85%が300人未満。
- (3) 機械金属産業を中心とする「ものづくり産業」の労働組合。
- (4) 法人格をもつ地方組織を設置し、地方組織に専従オルガナイザーを配置。

\*17地方JAM、108地協が基本的な活動組織。合わせて、大手労組会議、15業種別部会。

\*JAMの専従役員は、約190人(本部50人、地方140人)。

### 3. JAM結成までの経過と意義

- a. 機械金属産業の産別組織の大同団結により、旧同盟系と旧総評系が統一し、結成。
- b. 連合における中小労働運動の強化。
- c. 企業連・資本系列別労連への対抗。

### 4. リストラ・産業再編への対応

- a. 2001年秋から激発した企業倒産、雇用合理化提案。
- b. 倒産対策、企業再建のノウハウの蓄積。

### 5. 企業別労働組合の弱点を克服する産業別労働組合のあり方

- ・ 正規従業員の労働組合。企業別労働組合の否定ではなく肯定から。弱さの克服から強化へ。
- ・ 産業別労働組合の地方組織・地域組織の役割。専従役員(オルガナイザー)の役割。
- ・ 非正規労働者の組織化にどう対応するか。産業別労働組合と個人加盟ユニオン。
- ・ ナショナルセンターの役割。

### ■課題

- ①専従者の人材育成、②地域に労働運動の基盤を、③産業別労働組合の統合と運動強化